



伊藤達朗さん

一関地方森林組合  
代表理事組合長

profile いたう・たつろう

1941年舞川生まれ。先代から受け継いだ60ヘクタールの山林と「みちのくあじさい園」を経営。2005年、旧一関地方森林組合の代表理事組合長に。14年の旧東磐井地方森林組合との合併に尽力し、新たな一関地方森林組合の初代表理事組合長に就任

林業は生命維持産業。積極的に関わろう

木を植林し、50～60年かけて伐採するというサイクルを続けています。昔は、木材の代金で住宅の増改築や冠婚葬祭の費用を賄う人もいました。山が、銀行のような役目を果たしていたのです。現在は、木材価格が低迷し、伐採の経費も増加。山への関心は薄れています。

山の所有者は、境界確認などで積極的に山に入り、現状を把握しましょう。補助制度を使えば、除間伐も割安でできます。

山は、酸素を生み出し、水を蓄えてくれる。私たちの事業は「生命維持産業」だと思っています。国を挙げて、大切な山林を活用する仕組みがほしいです。

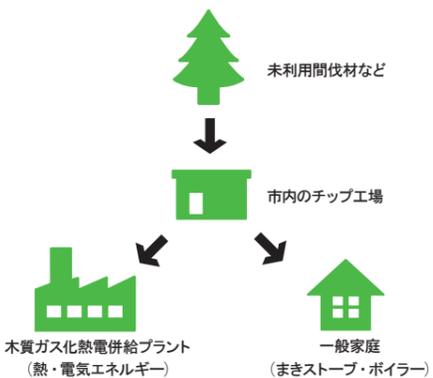


1 切り出した木材を真剣な表情で運ぶ一関地方森林組合の作業班員 / 2 作業現場の安全を確認するためのパトロール / 3 粉雪が舞う中での運搬作業 / 4 最新の重機で伐採した木を均等に切る / 5 山を見守る林業関係者 / 6 チェーンソーによる手作業も健在。手際良く枝を払う熟練の技術 / 7 若手の作業班員

木質バイオマスの利用で変わる地域の未来

「一関市バイオマス産業都市構想」では、未利用間伐材などを熱や電気を発生させる木質ガス化熱電併給プラントや一般家庭のまきストーブの燃料として位置づけ、100%の利用率を目指す。

市内に豊富に存在するバイオマスを活用し、エネルギーとそれを生み出す費用が地域内で循環し、地域全体が潤うまちを将来像として描く。



間伐材には、建材として利用できる部分のほかに、規格や採算が合わず、捨てられる部分がある。この未利用間伐材を「木質バイオマス」(\*2)と呼ばれる地域資源として利用する動きが広がっている。

市は今年10月、県内で初めて国からバイオマス産業都市の認定を受けた。一関バイオマス産業都市構想(\*3)では、地域のバイオマスの原料生産から利用まで一

未利用間伐材を資源に

貫したシステムを構築。資源とエネルギーが地域で循環する、環境にやさしいまちづくりを目指す。

同構想では、未利用間伐材は、熱や電気エネルギーを生み出す燃料用チップの原料という重要な位置付け。一関地方森林組合の伊藤達朗代表理事組合長は「未利用間伐材が収入源になる可能性がある。組合でも木質バイオマスの活用を力を入れていきたい」と話す。

捨てられていたものが新たな資源に生まれ変わろうとしている。



CHAPTER

2

山で稼ぐ

Mountains enrich our life.

市の面積の62%は山林。半世紀かけて繰り返してきた植林と伐採によって、現在はスギなどが林立している。一関地方森林組合は、最新の重機や熟練の技術で、山の木々を木材という資源へと生まれ変わらせる。

山を資源に変える

Point 東北有数の規模誇る一関地方森林組合

一関市の林野面積は、7万7741ヘクタール。市全体の約62%は山林だ。ここで伐採されるスギなどは、主に住宅の建材に利用される。

市内の山林の管理を担う団体の一つが、一関地方森林組合(伊藤達朗代表理事組合長)。年間約2万5千立方メートルの丸太を生産している。

森林所有者約8千5百人が加入する同組合では、植林などを行う森林整備事業と、丸太を生産する林産事業を主力事業として展開している。作業を行うのは120人の作業班員。彼らは山を資源に変えるプロ集団だ。

現代の伐採作業は、従来のチェーンソーによる手作業から、最新の重機による機械作業に様変わりしている。「重機の導入によって手作業が減り、肉体的な疲労も以前より軽減されている」と話すのは、同組合の菊池宏管理部長。1日当たりの作業量は、経費の低減と作業の効率化によって、手作業の2.5倍から3倍に増えた。

同組合では、林業を志す若者を対象とする県の「いわて林業アカデミー」(\*1)の受講を勧める。森林の育成を担う次の世代を育てる取り組みも行っている。

組合の事業は除間伐を始めとする森林整備、立ち木や丸太の買い取り・販売から、ハチの巣除去まで多岐にわたる。市内の山の除間伐の多くを請け負っている。職員は35人。作業班には120人が在籍し、地元の雇用にも大きく貢献している。

\*2 バイオマス… 未利用間伐材や畜糞などの再生可能な生物由来の有機性資源のこと。木材からなるバイオマスのことを木質バイオマスと呼ぶ

\*3 一関市バイオマス産業都市構想… 詳細は、市ホームページ (<http://www.city.ichinoseki.iwate.jp/index.cfm/7,84277,125.html>) に掲載

\*1 いわて林業アカデミー… 高校卒業後、1年間、資格取得や機械作業などの実地研修で「林業のプロ」を養成する。研修中は、月12万5千円の給付金も支給される